

「はい、小野歯科医院です」

「予約をお願いしたいのですが」

「こちらの医院へおいでになるのは初めてですか？」

「いえ、随分前に一度通ったことがあります、本当に暫くぶりです」

「それではお名前をフルネームでお願いします」

「足立篤です」

「申し訳ありません。少し声が遠いのですが、もう一度お名前よろしいですか？」

「足立篤です」

「足立篤さんですね。ご住所もお願いします」

「横浜市磯子区岡村一―三―十一です」

「こちらに通っていたのはいつ頃か覚えていらっしゃいますか？」

「ええと、一年ぐらい前だったと思います」

「わかりました。今カルテの確認をしてみますのでお待ち下さい」

足立は電話口で暫く待たされた。

「お待たせいたしました。足立篤さんのカルテの確認ができました。足立さんの前回の治療は平成十一年の一月で終わられていますね。担当の先生は岡田先生でしたので、岡田先生の治療で予約の時間をお調べします。今現在痛みが激しくて仕方ないということはありませんか？」

「いえ、大丈夫です」

「それでは、予約はいつがいいでしょうか？」

「一番早く予約がとれるのはいつでしょうか？」

「そうですね。一番早いのが今週の金曜日の一時半になります」

「すいません。曜日はいつでも構いませんが、午後ではなくて午前中に、それもできれば朝一番の時間がいいのですが」

「朝一番というと九時になります。その時間で一番早くとれる日となりますと、来週の火曜日になります」

「はい、その時間で結構です」

「では来週の火曜日の九時に予約を入れておきます。当日は保険証をお持ちくださいね」

「わかりました。よろしく願います」

当日、足立は予約時間の十分ほど前に小野歯科医院に着き、少し緊張しながらドアを開けて中に入った。

「おはようございます。九時に予約をお願いした足立篤ですが・・・」

「足立篤さんですね。おはようございます。今日は保険証はお持ちになりましたか？」

「はい、持ってきました」

「ではお預かりします。それから、こちらの用紙に現在の歯の状況について簡単に記入をお願いします。記入が終了しましたら、そちらのソファーにお掛けになってお待ち下さい」

「はい、わかりました」

足立は記入を終えるとソファーに座り、名前が呼ばれるのを静かに待った。